月桃（げっとう）通信 No21　2020 年８月６日

魂たちと共に闘う非戦平和　　石原艶子

〇亡き人の魂は不滅・・・・死は肉体からの解放であり、そこに宿していた魂がなくなることではない。　　（ガンジー魂の言葉）

〇柔和な人たち（踏みつけられてじっと我慢している人たち）は幸いである。その人たちは地を受け嗣ぐ。　　（新約聖書　マタイ５：５）

人は死んで終りではない。人の魂は生きて、今を生きる私たちに語りかけている。今を生きる私たちの心が魂たちのことを忘れないでつながろうとして呼ぶなら、魂たちは生き返り語り出すのだ。然し、魂たちのことを忘れ去り、呼ぶことをやめてしまったら、魂たちはもう何も語りはしない。戦争によって奪われたかけがえのない命たち、その理不尽な死、無念の死、死者たちの存在は知られることもなく唯空しく宙をさ迷うばかりだ。75 年前、鉄の暴風の中で、虫けらのように殺されていった幾百万もの命たち、一人一人の魂たちを今を生きる私たちが呼びもどそう。魂たちの叫ぶ声を、呻きを今、聞きとろう。心の耳をすまして実感しよう。千分の一でもいいから彼等の苦しみを想像してみよう。ただ言葉を失うばかりだ。75 年前、今を生きる私たちと同じように家族で食事をし、おしゃべりをし、平和に暮していた沖縄の民、何の罪もない子供たち、赤ちゃん、老人たちみんなみんな助け合って共に生きていた。戦争さえなければ・・・・貧しくとも幸せだった。戦後 75 年という長い年月が経ったけれど、私たちは地獄の血の中で虫けらのように殺されていったあなたたちのことを決して忘れはしない。もう決して二度とあの戦場をくり返しはしない。「武器を持つものは武器で滅びる」命どぅ宝、父の母の兄弟たちの命の叫びを、今この日、この時に私たちは聞いている。そして魂たちと一緒になって泣きながら叫んでいる。「軍事基地はいらない」空を仰ぐと無数の魂たちの叫びが青い空いっぱいに響き渡っていた。「平和、平和、平和を祈っているよ、平和の中でわたしたちは生き返るんだよ。」「平和をつくる者は幸いである。その人は神の子と呼ばれる。」平和をつくり、祈るわたしとして魂たちに答えよう。

「青い海は青いままで子供らに残したい　燃える沖縄の海、地獄の血の中で、父の母の兄弟たちの命の叫びを胸に抱いて、命どぅ宝」

６月 23 日沖縄慰霊の日、それは沖縄非戦平和の日として魂たちの前で誓い、世界に向って平和を宣言する日なのだ。戦後 75 年の今、米軍基地に囲まれて生きているこの現実の中で、辺野古、大浦湾の宝の海を埋め立てて新基地を造り続けるこの現実の中で。

数日前の勉強会で衝撃が走りました。辺野古、大浦湾の埋め立て用土砂を県内から、その中に糸満の土砂が計画されているというのです。地獄の激戦地だった糸満、魂たちの血にまみれた土、遺骨も土の中に砕け散っている土、どうしてこの土を軍事基地を造るために使えるのですか。私は絶対、絶対、許さない。この計画に打ちのめされて苦しくて悲しくて私は泣いてしまった。戦争のことを想像することも出来ない、感性と良心を失ったこの国の偽政者たちは人間ではなくなってしまった。沖縄への一片の思いやりもないのだ。もう決して大浦湾の埋め立ては出来ない、幾百万もの魂たちが決して許しはしないから。人

間には人間として絶対にしてはいけないことがある。それは戦争であり、人を殺すこと。そのための軍事基地も造ってはいけない。私たちはこれからも魂たちと共に叫び続けるでしょう。どうかどうかこれ以上沖縄を、そして魂たちを苦しめないで下さい。平和の内に休ませて上げて下さい。

「人・平和・人生」

〇世界を動かす力は軍事力ではなく、感動する力である。感動する心には幸せが宿る、平和が生れる。
（つや子）

〇間引き菜になってあなたを輝かす。（川柳　こやまひろこ）

〇自分が輝くのではなく人を輝かせること、そこから真の笑いが生れる。（お笑いタレント　萩本欽一）

〇夫婦がお互いを輝かせて喜び合えたら最高の夫婦。いつも私を輝かせてくれる夫、昌武さんに感謝。
（つや子）

〇魂の力は歴史をつくる力を持っている、歴史の中に、失われた魂の声を聞き未来の歴史をつくろう。
（つや子）

〇イエスさまだったらどうなさるだろうか、を考えその結果は自分の負うべき十字架と、とらえて歩んでいます。後期高齢者ではあっても「高貴」高齢者を目指して生きることはまだできます。
（エクレシア会　和賀真也）

〇人生は大きな木の下でたまたま出会った人と楽しむこと（不明）

私の人生もまたいつも大きな木の下にあった。自分の力で獲得したものは何ひとつなかった。（つや子）

(日常のひとこま)

・バナナの緑葉が風に吹かれて心地よさそうに踊っている。葉と葉をすり合せて歌い、向き合って肩をたたき合っておしゃべりしている。葉っぱの陰には何段もの実をつけたバナナが重たくたれ下って熟れる日を待っている。

・朝に夕に小鳥たちが電線に並んで楽しそうにおしゃべりして歌っている。

・灼熱の太陽の下、真紅に咲くハイビスカスとサンダンカは強い南国の花。道端に咲く小さな花たちは踏みつけられても立ち上り、黙って静かに咲く強い花。辺野古の海はホットスポット、海ガメが悠々と泳ぎ無数の生き物たちが命を育くんでいる。「海を殺さないで」と陸の木々や花たちが語りかけてくる。

「沖縄から」・・・コロナ感染者拡大のため抗議行動も休止をよぎなくされています。辺野古キャンプシュワブ内の感染者は隠して工事を強行している日本政府、防衛省を許すことは出来ません。苦しむ民を見捨てて、軍事力強化の議論をし、敵基地攻撃能力など全くの国民無視、国会招集も拒否する政府は一体誰のためにあるのですか。イージス・アショアの計画は中止し、何故、辺野古は中止に出来ないのですか。沖縄差別をしているのは物言わぬ国民一人一人、無関心は加害者であること。民の声が歴史を変えることが出来ることを信じましょう。連帯の力を確くしていきましょう!!すべての闘いの原点は無言の魂たちと共にあります。広島、長崎の被爆者、水俣の人々、原発事故に苦しむ福島の民、そして沖縄、韓国、中国、アジアの諸国、この国の戦争の歴史を絶対に忘れないために、二度と戦争しないために、もう武器の購入、製造をやめましょう。すべての国民の人権が守られるため福祉の充実に税金を使って下さい。

《私のこと》５月 12 日椎間板ヘルニアの手術をしてやがて３ヶ月、順調に回復して週一回は座り込み行動に参加できるようになりました。

この３ヶ月さまざまな症状が出て不安になる時、背中をポンと押されて気がついたら手術が終っていた体験、神の御手に委ねきっての決断が大きな支え、力、安心感となってきました。お一人お一人のお祈りご支援、心より感謝申し上げます。前向きに喜びつつ、感謝の内におります。